

山ノ内町議会議長 湯本 晴彦 様

申し入れに対する回答について

山ノ内町副町長 久保田 敦

令和7年3月19日付で申し入れのありました件につきまして、下記の通り回答します。

記

私は、令和6年12月議会における山本光俊議員の質問に対し、「ご質問の趣旨を踏まえて検討させていただく」という趣旨の答弁をさせていただきました。

令和7年3月議会における小林克彦議員のご質問に対しても同趣旨の答弁をさせていただきましたが、検討の結果として、私が調査を行うよりも、町長が政治家として、自らの行動に対して向けられた疑念について、自らの言葉で町民の代表である議員の皆様へ説明することが重要である、そうすることが町民から選ばれた町長としての責務であるとの考えに至ったことから、その日のうちに町長から聞き取りを行い、「自身の行動に対する周りの方々の受け止めはさまざまであること、今回の問題の根源は、町長自身が疑念を抱かせるような行動をとったこと自体にあること、町の代表者として疑念を抱かせるような行動は厳に慎んでいただきたいこと」を進言させていただきました。

町長も私の思いを真摯に受け止めていただいた上で、先の12月議会定例会閉会日のあいさつの中で、この議場という崇高な場で、自ら説明されるとともに自身の行動に対して疑念や誤解を招いてしまったことについて真摯に反省の弁を述べられたと認識しています。

私は、町長が議場という崇高な場で、町民の代表である議員の皆様に対して述べた内容はその通りであると認識しています。ただ、その通りだとしても、町民の皆様に疑念を生じさせてしまったこと自体が今回の問題であると考えています。令和7年度予算を審議しなければならない先の議会において、貴重な審議時間の中でこのような議論を交わすことになってしまったことに対し、町民の皆様には大変申し訳なく感じています。

私から申し上げるまでもなく、町長は議員の皆様と同様に選挙を通じて町民から選ばれた身であり、町民からこの町のかじ取りを任されています。町を代表する立場であり、その行動は町民全体の言動ととらえられると考えています。

町長の行動が原因で、町長の周りにいた方々ひいてはその方の受け止めに伝え聞いた町民の皆様に大きな疑念を抱かせてしまったこと自体が問題であったと考えておりますので、今後も町長に対しては、機会をとらえ「町民に疑念を抱かせるような行動は決してとらないでいただきたい」ということを進言させていただくとともに、私自身についても改めて、町民の皆様に疑念を抱かせるような言動は取らないよう肝に銘じてまいりたいと考えています。

繰り返しますが、私は、令和7年3月議会における小林克彦議員からの質問に対し、議場という崇高な場で、同趣旨の答弁をさせていただきました。

湯本晴彦議長におかれましては、議会運営の責任者としての自覚と矜持を持って、議場という崇高な場における私の答弁を真摯に受け止めていただいた上でご対応いただきますようお願い致します。

以上